

# ICANN76 参加報告書

慶應義塾大学 大谷 亘

April 1, 2023

## 1 概要

本稿では、JPNIC による ICANN76 参加支援プログラムを利用して ICANN76 Community Forum (メキシコ・カンクン) に参加した件について、「参加セッションと概要」「参加した所感」「今後の展望」の 3 点にわけて報告する。ICANN76 では開催 6 日間全日を通してセッションに参加した。特に、ICANN Fellowship Program として行われたセッションにも他の ICANN Fellow や NextGen たちと一緒に参加した。その他のセッションについては個人の興味分野に基づき選択して積極的に参加した。参加した所感として、英語でのコミュニケーションの難しさやネットワーキングの難しさ、それらの相互作用について学んだ。今後は学んだことを所属コミュニティに持ち帰り、気付いたネットワークを有効に活用していきたい。

## 2 参加セッションと概要

本会議においては、以下のセッションに参加した。

### 1 日目

- ICANN76 Fellows and NextGen Meet & Greet
- ICANN Fellowship Program: Consensus Playbook Training
- ICANN Fellowship Program: The Art of Small Talk

- Fellowship Social Networking Hour

### 2 日目

- ICANN Fellowship Program: Introduction to ICANN OCTO and KINDNS
- How it Works: ICANN Policy
- Get to Know the ICANN Community:

NCSG, NCUC, NPOC

5 日目

3 日目

- Welcome Ceremony
- Q&A with ICANN Org Executive Team
- Tech Day
- Joint Session: ICANN Board and RSSAC

- SSAC Public Meeting
- Looking Towards WSIS+20: How Can We Improve Multistakeholder Participation in Internet Governance?
- ICANN Board Members Welcome Fellows and NextGen Participants
- DNSSEC and Security Workshop

4 日目

- ICANN Fellows and NextGen: Focus on Universal Acceptance
- Root Server System Information Session
- Listening Session: Future of ICANN and the Next President and CEO
- Promoting Universal Acceptance through Local Engagement

6 日目

- ICANN Fellowship Program Wrap-Up
- ICANN Public Forum
- GNSO Council Wrap-Up
- ICANN Board Meeting
- Updates on Geopolitical, Legislative, and Regulatory Developments
- ICANN76 Wrap-Up Cocktail

以下、この中で特に注目したセッションについて概要を記す。

## 2.1 Introduction to ICANN OCTO and KINDNS

本セッションは ICANN Fellowship Program のセッションである。セッションでは、ICANN CTO である John Crain 氏などによる OCTO (Office of CTO) の紹介と、DNS の運用ベストプラクティスについてわかりやすくまとめた KINDNS について紹介があった。私は個人及び研究で DNS 権威サーバを運用しているので、本セッションでは特に DNS の技術的な側面に触れて ICANN がどのように活動しているのかを知ることができた。また、セッション後に私が行っている運用や研究について Crain 氏と議論することができた。

## 2.2 Focus on Universal Acceptance

本セッションは ICANN Fellowship Program のセッションである。セッションでは UA (Universal Acceptance) に関する基礎的な導入が行われた。また、IDN (Internationalized

Domain Name) と EAI (Email Address Internationalization) の普及状況について説明があった。私は EAI についてはあまり知らなかったが、基礎的な部分から学ぶことができるセッションだったため全容を理解することができた。また、セッション後に UASG から発行されている文書について実装面からの質問・提案を行い、後の議論で提案内容の取り入れを検討していただけることになった。

## 2.3 Root Server System Information Session

本セッションでは RSSAC (Root Server System Advisory Committee) による RSS (Root Server System) に関する導入的な説明が行われた。既に知っていることは多かったが、RSS 運用者の目線で見えた DNS や RSS についての説明が新鮮でわかりやすかった。私は大学学部授業などで DNS や RSS について教えることがあるが、今回のセッションを踏まえてよりわかりやすく誤解のない説明ができるようになると思う。

## 2.4 DNSSEC and Security Workshop

本セッションでは DNSSEC に関連した各組織の取り組みが紹介された。主に NIC などからの普及率や運用に関する報告が多かったが、アカデミックに近い研究発表もあり、その視点で勉強し楽しむことができた。DNS に限らない名前空間システムやそのセキュリティについても参考になる情報を得ることができた。本セッションでは特に実運用で活かせる情報が学べた。

# 3 参加した所感

セッションに限らず本プログラム全体を通じた所感を記す。

## 3.1 英語でのコミュニケーション

セッション中・セッション外問わず、言語コミュニケーションは英語を主体とした国連公用語で行われるが、どのセッションでも第二言語で話す・聴く人が多くいることを前提に reasonable pace で話すよう何度も注意があった。このことは聴く立場において、特に様々な地域の英語が入り交じる中でも内容をより正確に聞き取ることに役立った。反面、コロナ禍・オンラインでの国際交流のセッションでは聴く立場に徹することが多く時間をとつ

て解釈することができたが、特にセッション外での会話などでは双方向でのコミュニケーションが求められるため、英語で会話を行うスキルが求められた。

### 3.2 ネットワーキング

ネットワーキングではとにかく積極的に多様な人々と関わろうとする姿勢を持つことが重要だと認識した。特に英会話に対する苦手意識や、相手の立場・メーリングリストでよく見かける自分の中での「有名人」であっても怖がらずにとりあえず話しかければコミュニケーションは始められることを再度認識した。これは当たり前のことのように思えるが、このような場が初めての経験である私にとっては、これを念頭に置くことが重要だった。また、ICANN Fellowship Program では Coordinator の Siranush Vardanyan 氏に「ICANN の全てを知ろうとせず、興味のある分野を見つけて深く潜り込んだ方が良い」というアドバイスをいただいたが、セッション内・終了後問わず興味があれば小さなことでも質問や提案をしに行くことで、自分の知見がひろがるだけでなく多少なりともコミュニティに貢献できることが分かった。課題としては、今回築いたネットワークを今後どのように維持・成長させて自らの活動に活かすかと言う点が挙げられる。

上述した「英語でのコミュニケーション」「ネットワーキング」は相互に関連しており、英語でのコミュニケーションを上達させるひとつの方法としてネットワーキングが挙げられるし、ネットワーキングを円滑に進めるためには英語での会話スキルが重要であると考えられる。よって、特にセッション外の時間をネットワーキング・コミュニケーションのための場と捉え、積極的に会話をしに行くことで会話内容以上の恩恵を受けることができた。

### 3.3 セッション外でのコミュニケーション

セッション外では主に、セッション内容についての延長した議論の他に、自らのすすめる研究に関連のある分野の第一人者を探してその内容について議論を交わすことができた。さらに、そこでの議論をきっかけに3月に横浜で行われた IETF116 にてセッションの時間を使って自分の研究について発表し多くの研究者からコメントをいただくことに繋がった。特にアカデミアの立場で研究について話すことがあるとは予想していなかったため、インターネット運用の第一人者が集まる場所として今回の機会を予想外に有効活用できた。

## 4 今後の展望

今後の展望として、まずは ICANN にてどのようなことができるのか・得られるのかを持ち帰り、本報告書をもととして自分のいるコミュニティにて報告したい。これは特に技術屋が多いコミュニティでは新鮮な話題も多いと考えられ、かつ技術屋でもこのような会合に参加する意味を見いだせたということは強調しておきたい。また、ICANN Fellowship Program 中で学んだコンセンサスメイキングなどの手法を取り入れ、コミュニティ運用をさらに円滑に、より良いものにしたい。最後に、この機会を得たネットワークについて、インターネットガバナンスの視点ではもちろん、普段の学業などでも有効活用し、継続てきに広げていけるよう密に連絡を取り合っていきたい。

謝辞 現地でサポートして下さった JPNIC の前村昌紀氏、山崎信氏、本プログラムを調整いただいたフェロシッププログラム事務局の皆様、ICANN Fellowship Program にて Fellow や NextGen との交流の場を設けて下さった ICANN の Siranush Vardanyan 氏、一緒に議論して下さった ICANN Fellow 及び NextGen の皆様、本プログラムにご協賛いただいた ICANN64 ローカルホスト委員会の皆様、その他現地にて貴重な意見交換や議論をして下さった皆様に感謝申し上げます。